

都道府県名：兵庫県 団体名：加古川西部土地改良区

地域

加古川西部土地改良区は、兵庫県のほぼ中央に位置し、県下最大の規模をもつ一級河川加古川の西岸地帯に広がる加西市他 4 市 1 町にまたがる約 3,600ha の農業地帯を潤している。営農は、水稻を中心に野菜類、飼料作物等を組み合わせた複合農業が営まれている。

経緯

国営かんがい排水事業を契機に昭和 43 年に設立し、農業水利施設を適切に管理するとともに、水資源の保全に長期かつ継続的な活動を行っている。

功績内容

平成 14 年から「21 世紀土地改良区創造運動」の一環として、ため池の池干しを兼ねた雑魚取りを行う「ため池オアシス運動」や、明治時代に築造され、現在も使用している「飯盛野疏水」の成り立ちや、役割を地域住民に紹介するため「疏水ウォーク」を平成 30 年度から毎年開催し、疏水の歴史を楽しく学びながら「水の恵み」に対する理解を深めている。また、平成 27 年度から地域の小学生を対象に「小学校社会見学」を実施し、水利施設の役割や建設に携わった先人の苦労や知恵を伝承する活動を行っている。令和 3 年度からは、昭和 61 年に植樹された桜の景観を維持するため、水源である糀屋ダム周辺の桜の手入れ作業を行っており、上下流交流の場となっている。令和 4 年度からは、地域の高校生（県立北条高等学校）とともに水利施設の役割を伝えるため、地元小学生への疏水授業を行っており、交流の輪が広がっている。

これらの活動の結果、水利施設の適正な運用と管理によって農業用水の安定供給が図られるとともに、生態系保全や景観形成、交流の場の提供、地域文化の継承などの多面的機能の発揮が促進されており、イベント参加者からも「疏水が身近に感じられた」「たゆまぬ努力の結果、施設が維持保全されているのがわかった」などの意見をいただいている。

